

# NEWS CIT

2019  
7.15  
ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部  
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼  
2丁目17番1号  
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

https://www.it-chiba.ac.jp/  
毎月1回(8月を除く)15日発行

## ニュースガイド

- 2面 「CIT Brains」世界3強/機械学会講演で5人受賞/国際ロボコン中高生チームが報告会
- 3面 三浦さん全国空手3位/六工大空手でも男女活躍/ジムカーナ男子団体2位/ダーツも団体4位/関教授ら論文賞/信川准教授に若手研究者賞
- 4・5面 千葉工業大学決算を承認/学生共済会の予算、決算を承認
- 6面 PPA70周年・総会開く/初のインターンシップ説明会/2020年度入学試験日程
- 7面 ブラインドサッカー体験会/寮の運動会/谷津千潟フェスタに出展/ふなばし環境フェアでも/水耕ソーラー栽培へ定植実験
- 8面 6月オープンキャンパス

## リュウグウの地下物質採取

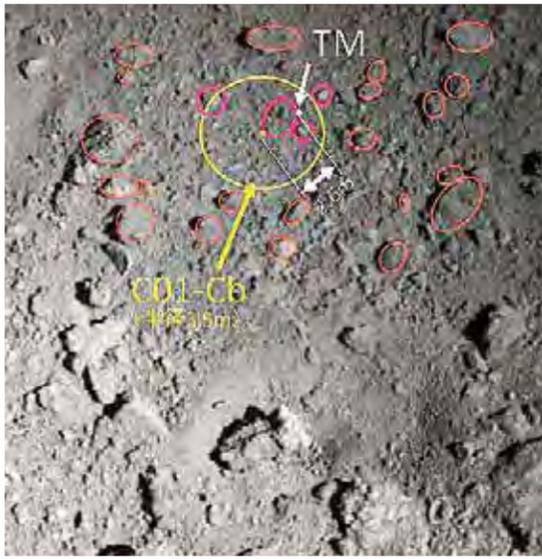
# 窮地を救ったカメラ

### 山田・主任 研究員開発 噴出物「適地」捉える

「100点満点(つまり1000点)」。探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウへの再着地を完璧に成し遂げ、世界で初めて地下物質の採取にも成功したとみられることは、日本中を歓喜と感動の渦に巻き込んだ。そして、ここでも本学惑星探査研究センター(PERC)が開発に関わった観測機器や研究が大きな貢献を果たした。

「はやぶさ2」は4月5日に衝突装置(SCI-I)を用いて「リュウグウ」の表面に直径約10cmの人工クレーターを形成し、地下からの噴出物を周囲にまき散らして堆積させることに成功した。SCIの衝突目標点は「はやぶさ2」が安全に着地できる比較的平坦な領域として2回目の着地が想定されていた場所のすぐそばに設定されており、SCIはほぼ狙い通りの地点に命中した。このSCIの開発と科学的検討に和野浩二(二野)主任研究員・副所長代行が関わっている。

ただ、ここで問題が起きた。あらかじめ決めた探査機の着地候補領域は、その後の観測で噴出物の堆積量が極めて少ないことが分かり、地下物質採取の成功に「？」が付いたのだ。着地領域を噴出物が厚く堆積している別の領域に変更すればよさそうなのだが、そのために必要となる岩石の位置や大きさを正確に把握するための高解像度画像がない。



④光学航法カメラ(ONC)が緊急離脱時の自動撮影で捉えた、噴出物の堆積が期待できる領域(C01-Cb)。人工クレーターの中心から約20cmで、再着地点となった。⑤その後の降下観測で撮影されたC01-Cb付近の詳細画像。「積み岩」などとニックネームを付けて高さなどを詳しく分析している。⑥千葉工大、JAXA、東京大、高知大、立教大、名古屋大、明治大、会津大、産総研

この窮地を、山田主任研究員が開発と研究に携わった光学航法カメラ(ONC)が救った。



山田主任研究員は2010年5月に打ち上げられた金星探査機「あかつき」で、メインエンジンの故障から探査機が予定軌道に入らなかったとき、長期間一枚の画像も撮れなかった苦い経験がある。

山田主任研究員は2010年5月に打ち上げられた金星探査機「あかつき」で、メインエンジンの故障から探査機が予定軌道に入らなかったとき、長期間一枚の画像も撮れなかった苦い経験がある。

当初の着地候補領域に對して、5月16日に行われた探査機の降下運用がトラブルで中断したことがある。高度を測るレーザー高度計(LIDAR)の感度を自動で切り替えた瞬間、実際には50cmの探査機の高さを、瞬間的に約6000cmと検知。「異常事態発生！」と自律的に判断した探査機は緊急上昇した。

LIDARのプログラム変更の仕方に関係があったことが原因だった。しかし、このとき緊急上昇する探査機から、後に着地することになる豊富な地下物質の堆積が期待される領域の高解像度画像をONCが撮っていた。

山田主任研究員が万が一のために組み込んでおいた「緊急離脱時の自動撮影」プログラムがここで動いたのだ。

山田主任研究員は2010年5月に打ち上げられた金星探査機「あかつき」で、メインエンジンの故障から探査機が予定軌道に入らなかったとき、長期間一枚の画像も撮れなかった苦い経験がある。

「はやぶさ2」は7月11日午前10時過ぎ、狙い通りにこの地点に着地。サンプラーホーンを地表に押し当てて弾丸を撃ち出し、舞い上がった噴出物の採取にも成功したと見られている。

この着地直後、サンプラーホーン先端付近で岩石が飛び散る写真が、「着地成功」の記者会見

「はやぶさ2」プロジェクトでのPERCの活躍はマスコミも注目、報道した。NHK総合テレビは2回目の着地を翌朝に控えた7月10日夜の「ニュースオッチ9」の冒頭で、「この挑戦を可能にしたのは、研究者の執念だった」として、山田主任研究員の活躍を本人インタビューも交えて放送。「金星探査機」あかつき」での撮像失敗経験が今回の「万一」の場合の備えにつながった」と、山田主任研究員の用意周到ぶりを讃えた。

11日夜のTBSテレビ「ニュース23」には和田主任研究員が登場。東京スカイツリーキャンパスArea IIの「はやぶさ2」実物大模型の前で、「リュウグウ」への着陸の難しさや、地下試料の科学的価値などをコメントした。

この経験が今回の「万一の備えにつながった。そして緊急上昇する探査機から撮ったこのときの画像が、新たな着地領域の決定の決め手となった。「山田さんがいなかったら、2回目の着地も噴出物採取もなかったと言っても過言ではないくらい」(和田主任研究員)

しかし、これで問題が全て解決したわけではなかった。「はやぶさ2」の安全な着地には着地点に高さが70cm以上の岩石がないことが条件だが、新たな着地領域に転がっている岩石の高さがいまひとつ解明できていなかった。そこで再び山田主任研究員の出番がくる。

「はやぶさ2」は7月11日午前10時過ぎ、狙い通りにこの地点に着地。サンプラーホーンを地表に押し当てて弾丸を撃ち出し、舞い上がった噴出物の採取にも成功したと見られている。

この着地直後、サンプラーホーン先端付近で岩石が飛び散る写真が、「着地成功」の記者会見

## 成層圏で微生物採取

### PERCチーム 大気球上げ成功

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の大気球を使い成層圏に浮かぶ微生物を採取する惑星探査研究

センター(PERC)の実験が7月4日に行われ、採取に成功した。写真(JAXA提供)。

大野宗祐(おのむねゆ)主任研究員をリーダーとするこの実験は2016年、17年に続いて3回目。北海道大樹町の大樹航空宇宙実験場から放球された大気球に、PERCが開発した微生物採取装置5基を吊るして行われた。

大野宗祐(おのむねゆ)主任研究員をリーダーとするこの実験は2016年、17年に続いて3回目。北海道大樹町の大樹航空宇宙実験場から放球された大気球に、PERCが開発した微生物採取装置5基を吊るして行われた。

# 「CIT Brains」世界3強

## ロボカップ2019 キッドサイズサッカー

### 強豪仏、中と頂上戦 大会最高得点も

未来ロボティクス学科を主体に有志で組織しているヒューマンノイドロボット開発チーム「CIT Brains」が7月2日から8日まで豪州シドニーで

開かれた「ロボカップ世界大会2019」に出場。ヒューマンノイド・キッドサイズ部門のサッカーゲームで3位に入った。上位チームの実力が伯

仲する中、「CIT Brains」は名実ともに「世界の強豪」と認められた。ヒューマンノイド・キッドサイズ部門には世界各国から16チームが参加

し、まず4機対4機でサッカーゲームを行った。ゲームは16チームが4グループに分かれ、各グループ内で総当たり戦を行ってトーナメントの対戦相手を決める予選に始まり、トーナメント1回戦、準々決勝、準決勝、決勝と進む。

「CIT Brains」は今回最新のルールに合わせて学生主体で開発・製作した機体「Gankenkun」6機を持参。予選3試合中2試合に勝利し、トーナメント1回戦で中国のチ

ーム「FHMOS」を12対0の大差で撃破した。12点は1試合の獲得点としては今大会最高だった。

続く準々決勝では、インドネシアの「Barelang」を5対1で破ったが、準決勝で激突したのは仏ボルドー大学の「Rhoban Football Club」。世界大会などで何回も対戦した相手だ。



① 機体を調整する「CIT Brains」チーム



② 参加メンバー



③ 「CIT Brains」チームのメンバー

ーム「Rhoban」はフィールド上のロボット同士が連携プレーするための通信システムが原因不明の不調に陥っている間に、5点を先取された。そこで後半、ロボット同士の通信を遮断し、全員「フォワード」態勢に戦

略を切り替えて3点を奪い返したが、そこでゲーム終了。しかし、「CIT Brains」が反撃している間、通信システムが正常な「Rhoban」は1点も取

れなかった。3位決定戦は中国遼寧省瀋陽市の大学、智能工程学院のチーム「SUT Legendry」対戦。5対1で降参「CIT Brains」の3位が決まった。

決勝は中国浙江省杭州の名門、浙江大學チーム「ZJUJanker」と「Rhoban」と、上位進出の常連同士の対戦となり、5対1で「Rhoban」が世界王座に輝いた。

テクニカルは2位 キッドサイズ部門ではこの他にテクニカルチャレンジとドロップインが行われた。テクニカルチャレンジでは7チームが①フッシュユリカバリー②ダイナミ

ックキック③ハイジャンプ④ハイキックの4種目で技術力を競った。「CIT Brains」はフッシュユリカバリーで圧倒的な強さを発揮し、合計29点を獲得したが、人間のサッカーのセンタリングシュートに当たる②や③

④で最高得点し、合計33点を取った「Rhoban」に競り負け2位。ドロップインは参加16チームがそれぞれ1機ずつ出場させたロボット4機で構成する連合チームによる競技。得点はロボット1機ごとにカウントされる。「CIT Brains」

### 国際ロボコンで活躍

### 中高生チームが報告会

未来ロボット技術研究センター（fuRo）の富山健研究員らがメンターとして支援・指導して世界最大規模の国際ロボコンに参加している中、

高校生のチーム「サクラ・テンペスタ」が7月13日、津田沼6号館で活動報告会を開いた。サクラ・テンペスタは2017年に発足。千葉

県と東京都の中・高校生20人ほどが加わって「フリスト・ロボティクス・コンペティション（FRRC）」に挑戦するため、活動をしている。メンバーの半数が女生徒だ。

初挑戦だった昨年3月のハワイ地域大会で好成績を収めて、日本チームとして初めて世界大会に進んだ。4月に米デトロイトで開催された世界大会では「最も印象に残る活躍をした新人チーム」として賞を受けた。

### 学会賞2人、支部賞も3人

#### 機械学会支部講演会

日本機械学会関東支部の第25期総会講演会は3月18、19日、本学津田沼校舎2、3、6号館で開催され、本学の越川樹さん（機械サイエンス専

攻修士2年、緒方隆志研究室）と田中将太さん（同、高橋芳弘研究室）が2018年度若手優秀講演フェロー賞を受賞。

小椋英里花さん（機械サイエンス専攻修士1年、藤井浩光研究室）菅洋志研究室、金原大地さん（同、佐野正利研究室）、川又健太さん（未来ロボティクス学科

3年、藤井浩光研究室）の3人は若手優秀講演賞を受賞した（学年は発表時）。それぞれ卒業・進学後の4月16日に賞状が贈られた。

フェロー賞は機械学会が授与するもので、2人の発表論文は次の通り。越川さん「SUSSO 4鋼環状切欠き試験片を用いた応力集中部のクリープ損傷評価」▽田中さん「有限要素法を用いた車輪とレールの接触解析

の基礎的研究」。越川さんの研究は、高温高圧下での耐熱金属材料の損傷メカニズムを解明し火力発電所のボイラーなどの寿命を予測する

もの。「ひとつの実験に数百〜数千時間かかりました。学生最後の学会発表で受賞でき、頑張ってきた甲斐があったなと思います」と感想を寄せた。

一方、機械学会関東支部が授与する若手優秀講演賞3人の発表論文は次の通り。

小椋さんの研究は、数十ナノ（10億分の1）の尖った先端を持つナノ探針の作製法について。ナノ探針はCPUやメモリの故障解析やナノテク研究に欠かせない

の気持ちです」が、液体中でゆっくり溶かしながら作製するので製作コストが高かった。小椋さんらはタンクステン表面の酸化と昇華を、表面数ナノ部分に限定し精密に制御することで、ドライ環境で速く大量作製できる方法を見つけた。



越川 樹さん



小椋英里花さん



川又 健太さん

小椋英里花さん（機械サイエンス専攻修士1年、藤井浩光研究室）の発表論文は次の通り。



小椋英里花さん



川又 健太さん



川又 健太さん

「素晴らしい賞を頂け光栄です。指導教員をはじめ皆様に感謝するとともに、今後も建設産業分野と社会に貢献できるように努めていきたいと思っています」

報告会でチームメンバーは、大会での英語のプレゼンテーションを再現するなど大学生顔負けのパフォーマンスを披露して、保護者やスポンサーらを感動させていた。

「ロボカップ世界大会2020」は来年6月23〜29日、フランスのボルドーで開催される。

林原靖男教授の話 CIT Brainsはこれまで世界のどのチームもできなかった技術を開発してロボカップを牽引してきた。今回の世界大会の上位チームは、どのチームが優勝してもおかしくない状態まで技術の成熟度が上がってきていました。その中でCIT Brainsは他チームからリスベクトとライバル意識の両方を抱かれていることを実感しました。「世界の強豪」として定着してきたことを自覚させられました。

富山研究員は自分の研究室をチームの活動の場として提供する一方、未来ロボティクス専攻修士課程に在籍していた瀬戸悠介さん（上田研究室）や山本帝輝さん（米田研究室）の協力を得て、プログラミングや競技用ロボットの基本技術、企業とのコンタクトの取り方、メールの書き方まで指導してきた。

報告会でチームメンバーは、大会での英語のプレゼンテーションを再現するなど大学生顔負けのパフォーマンスを披露して、保護者やスポンサーらを感動させていた。

# 三浦さん全国空手3位

## 個人組手 岡田さん以来

空手の日本一を決める内閣総理大臣杯・第62回全国空手道選手権大会（日本空手協会主催）7月6、7日、東京都調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザで開催。一般女子個人組手で、本学体育会空手道部主将の三浦彩さん（プロジェクトマネジメント学科3年）が3位に入賞。



また、本学空手道部（清水拓馬）プロジェクトマネジメント学科2年、堀颯拳（同1年、福田麻斗）は大学団体戦・形の部と都道府県対抗戦でも3位に入った。三浦さんは小学4年から空手を始め、拓殖大紅陵を経て本学空手部の手権（17年）女子個人組手で優勝。現在、空手道部で練習。第30回全日本理工科系大学空手道選手権（17年）女子個人組手で優勝。現在、空手道部の主将を務めている。自らスロースターター

## 六工大空手でも男女活躍

第67回東都六工大空手道選手権大会（6月24日、東京都目黒区の東京工業大学体育館で開催）で、本学体育会・空手道部（三浦彩主将）は男子組手の組手（5人出場）と形（3人出場）で優勝。個人戦も女子組手で上藤花穂さん（プロジェクトマネジメント学科1年）が優勝、男子組手で高橋聖悟さん（金融・経営リスク学科2年）が準優勝と、好成績を収めた。



女子組手優勝の上藤さんは高校の部活動で空手を始めた。「自分の間合いを保ちながら試合運びができるようになった。相手の攻めに下がってしまつので、前に出られるよう練習に励んでいきたい。」男子組手準優勝の高橋さんは、内気な性格を治し礼儀を学ぼうと空手を始めたという。「ポイントの取れるところで踏ん張り利かなくなつた。ひとつひとつのキメを強くし、来年は優勝を狙いたい」と語った。

## 学生ジムカーナ男子団体2位

### 自動車部 鈴鹿へ出場権

鈴鹿路でタイムを競い合う平成31年度全関東学生ジムカーナ選手権大会は5月26日、富士スピードウェイ（静岡県駿東郡小山町）のジムカーナコースに21校が参加して開かれ、本学体育会自動車部（主将・伊東拓海さん）先頭材料工学科3年）のチームが男子団体で2位に入賞。全日本学生ジムカーナ選手権（9月1日、三重県鈴鹿市）の鈴鹿サーキットで開催への出場を決めた。



チームは伊丹琉哉さん（機械工学科3年）、伊東拓海さん（先端材料工学科3年）、倉田拓太郎さん（機械工学科4年）出走順の3人写真。ジムカーナは、バイクで指定されたコースを正確な技術で走り抜け、タイムを競う。本学チームは3人とも正確なドライブ

## ダーツも団体4位

### 全日本学生選手権へ

イヒングテクニクで落ち着いた走りを見せ、合計3分5秒の好タイムをたたき出した。1位は芝浦工大チームだった。個人の部でも、倉田拓太郎さんが4位に入賞した。



自動車部のチームは、未舗装の指定ルートを走る2019年度全関東学生ダーツトライアル選手権大会（6月23日、栃木県那須塩原市の丸和オートランド那須で参加14校）にも参加し、男子団体で4位に入賞した。写真

## キーボードに「感性設計」

### 関教授ら論文賞

日本設計学会の2018年度論文賞に、関研プロジェクトマネジメント学科教授写真らが発表した「システムモデルを活用したキーボードのキー入力に関する感性設計」が選ばれた。同学会の19年度春季研究発表講演会（5月25日、横浜市中区の横浜メディア



関教授は長年、音響振動領域を研究。今回テーマでは特に、津田沼校舎8号館の音響物理実験室で製品音関連の実験ができたことや、学内の音響情報研究グループ、企業各社との共同研究が発想の源になったという。

「感性設計」として手順を示した。音や触感などの感性を含むユーザー要求からシステム要求を定義し、ユーザーの打鍵動作に関わる構成要素間の振る舞いと、物理特性との関係性を記述。打鍵動作に際した感性要求の時間的なつながりを明らかにした。新たにシステムズエンジニアリングの考え方を導入した点や、商品設計の現場で応用できる手法を提起した点が評価された。

## 人工知能研究の成果発表

### 信川准教授に若手研究者賞



Dynamic Transition of Emergent Patterns in Spiking Neural Networks Composed of Excitatory-Inhibitory Neural Modules (興奮性抑制性モジュールによる動的遷移パターン)がYoung Researcher Award (若手研究者賞) に決まった。

脳は優位性のカギは、スパイク活動（ニューロンの活動電位）による時間的遷移特性がYoung Researcher Award (若手研究者賞) に決まった。今年6月29日、横浜市の慶應義塾大・矢上キャンパスで授賞式があった。ディーブラーニング（深層学習）に代表されるニューラルネットワーク技術の進歩は目覚ましいが、消費電力や学習データの量が比較すると、脳の方がはるかに小さい消費電力・データ量で処理している。信川准教授は2年前に本学に着任。「不慣れな私にご指導くださった情報工学科の先生方や、産官学融合課、学部事務室など職員の方々に感謝したいです。今後も先端領域で研究を展開するとともに、成果を教育に還元していきます」とコメントした。

# 千葉工業大学決算(平成30年度)を承認

学校法人千葉工業大学の平成30年度決算が、5月28日の理事会・評議員会で承認された。平成30年度は、教育・研究活動のための新習志野キャンパス5号館の空調設備を全面更新。また、魅力ある大学づくりの一環として、女子寮の完成や学生クラブ活動を支える環境整備の充実を目指した予算となった。(30年度事業計画の全文は本学ウェブサイトで公開中)

## 1 教育研究活動

- (1) 入学試験関係  
平成31(2019)年度入学試験における学部入試の総志願者数は9万2528名(前年度8万449名)となった。  
(2) 学生生活の満足度向上へ向けた継続的対応  
① 学生生活アンケート調査の実施と活用  
② 授業アンケート調査の実施  
③ ICTを活用した学生サービス  
④ 単位互換制度  
(3) 入学前教育の充実  
(4) 教養基礎教育カリキュラムの充実  
① TOEIC試験の実施  
② テーマ別履修の実施と課題探究セミナー(総合学際科目)との連携  
③ 教養教育全般の検証と積極的な改善  
④ 教養特別科目(ボランティア、国内インターン、国際インターン、ソーシャルアクティブラーニング、スポーツアクティブラーニング等)の実施  
(5) 初年次教育の充実・強化  
① 初年次教育科目における新たな取組み(サイバー大学  
(6) グローバルラウンジの開設  
(7) 大学院への進学支援  
(8) キャリア教育科目実施サポート  
(9) キャリア形成支援プログラムの強化  
(10) インターシップの促進  
(11) 新入生に対する少人数制

**事業活動収支計算書**  
平成30年4月1日から平成31年3月31日まで  
(単位:円)

科目		予算	決算	差異
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	13,917,300,000	13,918,656,000	△1,356,000
	手数料	369,800,000	390,472,927	△20,672,927
	寄付金	109,100,000	123,201,724	△14,101,724
	経常費等補助金	675,100,000	675,381,621	△281,621
	付随事業収入	702,600,000	740,172,132	△37,572,132
	雑収入	331,700,000	365,277,513	△33,577,513
	教育活動収入計	16,105,600,000	16,213,161,917	△107,561,917
	人件費	7,315,900,000	7,277,282,133	38,617,867
	教育研究経費	6,598,300,000	6,505,233,536	93,066,464
	管理経費	1,762,200,000	1,726,455,990	35,744,010
徴収不能額等	0	2,122,401	△2,122,401	
教育活動支出計	15,676,400,000	15,511,094,060	165,305,940	
教育活動収支差額	429,200,000	702,067,857	△272,867,857	
教育活動外収支				
収入の部				
受取利息・配当金	402,000,000	406,084,723	△4,084,723	
その他の教育活動外収入	0	1	△1	
教育活動外収入計	402,000,000	406,084,724	△4,084,724	
支出の部				
借入金等利息	0	0	0	
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出計	0	0	0	
教育活動外収支差額	402,000,000	406,084,724	△4,084,724	
経常収支差額	831,200,000	1,108,152,581	△276,952,581	
特別収支				
収入の部				
資産売却差額	2,000,000	3,524,945	△1,524,945	
その他の特別収入	86,900,000	88,306,718	△1,406,718	
特別収入計	88,900,000	91,831,663	△2,931,663	
支出の部				
資産処分差額	15,000,000	14,953,111	46,889	
その他の特別支出	600,000	515,938	84,062	
特別支出計	15,600,000	15,469,049	130,951	
特別収支差額	73,300,000	76,362,614	△3,062,614	
基本金組入前当年度収支差額	904,500,000	1,184,515,195	△280,015,195	
基本金組入額合計	△1,088,100,000	△1,074,345,889	△13,754,111	
当年度収支差額	△183,600,000	110,169,306	△293,769,306	
前年度繰越収支差額	△7,216,100,000	△7,216,047,629	△52,371	
翌年度繰越収支差額	△7,399,700,000	△7,105,878,323	△293,821,677	
事業活動収入計	16,596,500,000	16,711,078,304	△114,578,304	
事業活動支出計	15,692,000,000	15,526,563,109	165,436,891	

**貸借対照表**  
平成31年3月31日  
(単位:円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	110,176,911,724	109,717,881,813	459,029,911
有形固定資産	67,950,230,377	69,948,762,977	△1,998,532,600
土地	9,343,367,496	9,343,367,496	0
建物	50,198,395,960	50,641,376,976	△442,981,016
構築物	3,329,739,253	3,619,835,633	△290,096,380
教育研究用機器備品	2,427,997,392	2,622,842,664	△194,845,272
管理用機器備品	675,960,497	752,088,306	△76,127,809
図書	1,913,228,838	1,904,153,555	9,075,283
車両	61,540,941	53,214,547	8,326,394
建設仮勘定	0	1,011,883,800	△1,011,883,800
特定資産	41,013,604,150	39,341,911,200	1,671,692,950
第2号基本金引当特定資産	3,613,604,150	3,241,911,200	371,692,950
第3号基本金引当特定資産	10,000,000,000	10,000,000,000	0
退職給与引当特定資産	3,000,000,000	3,000,000,000	0
減価償却引当特定資産	24,000,000,000	23,000,000,000	1,000,000,000
小川(勉)国際交流支援基金引当特定資産	100,000,000	100,000,000	0
PCB処理引当特定資産	300,000,000	0	300,000,000
その他の固定資産	1,213,077,197	427,207,636	785,869,561
長期貸付金	263,586,677	252,344,496	11,242,181
差入保証金	2,500,000	2,500,000	0
敷金	54,749,760	54,749,760	0
投資有価証券	892,177,600	117,597,600	774,580,000
預託金	63,160	15,780	47,380
流動資産	10,446,049,571	9,114,777,874	1,331,271,697
現金預金	10,102,403,090	8,783,462,055	1,318,941,035
未収入金	282,609,430	225,714,547	56,894,883
前払金	61,037,051	105,601,272	△44,564,221
資産の部合計	120,622,961,295	118,832,659,687	1,790,301,608
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	3,302,279,704	3,290,386,330	11,893,374
退職給与引当金	3,302,279,704	3,290,386,330	11,893,374
流動負債	6,377,849,290	5,783,956,251	593,893,039
前受金	5,571,655,909	4,957,771,535	613,884,374
未払金他	806,193,381	826,184,716	△19,991,335
負債の部合計	9,680,128,994	9,074,342,581	605,786,413
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	118,048,710,624	116,974,364,735	1,074,345,889
第1号基本金	103,443,106,474	102,740,453,535	702,652,939
第2号基本金	3,613,604,150	3,241,911,200	371,692,950
第3号基本金	10,000,000,000	10,000,000,000	0
第4号基本金	992,000,000	992,000,000	0
繰越収支差額	△7,105,878,323	△7,216,047,629	110,169,306
翌年度繰越収支差額	△7,105,878,323	△7,216,047,629	110,169,306
純資産の部合計	110,942,832,301	109,758,317,106	1,184,515,195
負債及び純資産の部合計	120,622,961,295	118,832,659,687	1,790,301,608

## 2 研究推進活動

- (1) 海外交流協定大学との連携強化とグローバル化  
① 学生の国際交流  
・短期派遣プログラム  
・協定大学からの交換留学  
・短期招聘プログラム  
② 海外交流協定大学との教職員交流  
・瀬戸熊理事長の協定大学訪問  
・小宮学長の協定大学訪問  
・教職員協定校訪問交流  
・SD活動  
・客員研究員  
・本学訪問  
(2) 地方自治体等との国際交流協力活動  
・日本メキシコ学生交流プログラム  
(3) 国または地方公共団体等からの競争的研究資金等の獲得支援  
① 科学研究費助成事業  
② 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業  
③ 良質住宅ストック形成のための市場環境整備促進事業(国交省)  
④ 建設技術研究開発費補助金(国交省)  
⑤ 中小企業経営支援等対策費補助金(経産省)  
⑥ 公的受託  
(4) 民間からの奨学寄付金及び受託研究費  
(5) 研究助成関係  
① 特許出願  
② 特許  
③ 附属研究所  
ア. 研究助成金の交付  
(1) 先端研究推進プロジェクト助成金(Ⅰ)  
(2) 先端研究推進プロジェクト助成金(Ⅱ・Ⅲ)  
(3) 科研費採択者助成金(初年度)  
(4) 若手研究における独立基盤形成支援助成金  
イ. プロジェクト年報の作成  
助成対象の研究成果をまとめたプロジェクト年報(CD版)を作成するとともに、大学のホームページにも掲載。  
ムページにも掲載。  
ウ. 材料解析室工作センター  
(6) 未来ロボット技術研究センター(fuRo)  
① 企業に対する技術移転、企業からの研究開発受託による成果  
② その他  
(7) 惑星探査研究センター(PERC)  
惑星探査研究センターは、惑星探査装置の開発、惑星探査データの解析、惑星科学研究および惑星科学に関する啓蒙を主な活動内容としている。  
(8) 人工知能・ソフトウェア技術研究センター(STAIR Lab)  
人工知能研究では、「ディープラーニングを使ってきめ細かな人の動作を認識する」「フライングレイン画像認識のプロジェクト」という2つのプロジェクトを進めている。  
ソフトウェア技術研究では、機械学習研究を支援するプラットフォームの研究・開発や機械学習技術を活用したプログラム改善を支援するフレームワークの研究・開発、メモリ一貫性モデルに関するプログラム検証・解析技術の研究などを進めた。引き続き、機械学習研究を支援するソフトウェア技術・機械学習技術を活用したソフトウェア技術の研究を進める予定。  
(9) 次世代海洋資源研究センター(ORCeNG)  
次世代海洋資源研究センターは、世界初の海洋資源開発実現に向けて、海洋資源の探査・揚鉱・選鉱・製錬といった基礎から応用につながる多様な研究・開発を実施する機関として平成28(2016)年4月に発足。平成30年度は常勤5名、非常勤5名の研究員が研究に従事した。  
**3 学生支援関係**  
(1) 学生支援の充実強化(学生相談、課外活動、学生寮、奨学金等)  
① 学生相談  
② 課外活動支援の充実  
③ 学生寮生に対する支援  
④ 奨学金支援活動  
⑤ 障がい学生支援の充実  
(2) 学生共済会の充実  
① 見舞金給付  
② 学生納付金貸与制度  
③ こころからの元氣サポート  
④ 暮らしの法律相談  
⑤ 学生補償サポート制度  
⑥ 備蓄食の購入  
⑦ 健康サポート制度  
(3) 留学生の派遣及び受け入れ体制の充実  
① 留学生への支援の充実  
② 在籍管理等の強化  
(4) 教科書及び参考図書(シラバスコーナー)の拡充・整備  
(5) 図書館利用者への利便性の向上  
(6) 教職協働で自学自習やア

クティプランニングを支援、図書館利用促進

4 施設設備整備関係

平成30年度は、新習志野校舎再開発計画において女子寮の増築が完成した。また、新習志野校舎5号館(講義棟)の空調設備を全面更新した。

昨年度に続き、魅力ある大学づくりの一環として、教育・研究活動・学生クラブ活動を支える環境整備の充実に努めた。

- (1) 女子寮増築
- (2) 新習志野校舎5号館空調設備更新
- (3) その他

5 地域・社会への貢献

- (1) 公開講座
- (2) 産官学連携協議会関係

- ①各種のご案内
- ②工場見学

- (3) 若手社員向け合同研修会
- (4) 県内地域との包括的連携協定を締結

6 法人管理・運営関係

- (1) 基幹ネットワークのセキュリティ強化
- (2) 無線LANの強化と安定稼働の実現

- (3) 事務シシクライアントシステムの安定稼働の実現
- (4) 情報セキュリティ教育の充実

- (5) コンピュータ演習室のリリースと安定稼働の実現
- (6) 自己点検評価活動

- (7) 公的研究費等の監査の実施
- ①通常監査、特別監査の実施
- ②不正防止計画履行状況調査

- ③機器備品監査の実施
- ④その他

- (8) 自己管理型点検評価チェックシステムの実施
- (9) 公益通報制度の充実

資金収支計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	13,917,300,000	13,918,656,000	△1,356,000
手数料収入	369,800,000	390,472,927	△20,672,927
寄付金収入	109,100,000	123,201,724	△14,101,724
補助金収入	684,800,000	685,115,621	△315,621
資産売却収入	2,000,000	3,524,945	△1,524,945
付随事業・収益事業収入	702,600,000	740,172,132	△37,572,132
受取利息・配当金収入	402,000,000	406,084,723	△4,084,723
雑収入	331,700,000	365,277,513	△33,577,513
前受金収入	5,042,800,000	5,571,655,909	△528,855,909
その他の収入	6,710,800,000	6,778,670,747	△67,870,747
資金収入調整勘定	△5,199,700,000	△5,240,380,965	40,680,965
前年度繰越支払資金	8,783,500,000	8,783,462,056	
収入の部合計	31,856,700,000	32,525,913,332	△669,213,332
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	7,315,900,000	7,265,388,759	50,511,241
教育研究経費支出	3,864,500,000	3,771,396,744	93,103,256
管理経費支出	1,111,800,000	1,075,907,735	35,892,265
施設関係支出	702,800,000	718,409,290	△15,609,290
設備関係支出	636,800,000	604,339,488	32,460,512
資産運用支出	6,633,900,000	6,636,239,990	△2,339,990
その他の支出	2,988,800,000	3,002,839,576	△14,039,576
資金支出調整勘定	△405,600,000	△651,011,340	245,411,340
翌年度繰越支払資金	9,007,800,000	10,102,403,090	△1,094,603,090
支出の部合計	31,856,700,000	32,525,913,332	△669,213,332

(10) SD活動の充実

- (11) 衛生委員会の取組み
- ①職場巡視の実施
- ②作業環境測定の実施
- (12) 輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会行動宣言の取組み

7 財務の概要

(1) 教育活動収支

①教育活動収入計1億62億1300万円(予算比1億800万円増 前年度比2億700万円増)

教育活動収入計は、全ての科目において予算比増となった。

②教育活動支出計1億55億1100万円(予算比1億6500万円増 前年度比1億9000万円減)

a 人件費は嘱託・招聘研究員等の増加や退職者増があったものの、予算比3900万円減の72億7700万円となった。

人件費比率は43.8%で、理工系他複数学部を有する私立大学の平均値(49.4%)に比べ、売却差額で400万円、施設設

備補助金や現物寄付で8800万円、あわせて9200万円となった。

b 教育研究経費は、消耗品費、修繕費、旅費交通費等が予算額を下回り、予算比9300万円減となった。

①職場巡視の実施
- ②作業環境測定の実施

数学部を有する私立大学の平均値(35.7%)に比べ、引き続き高い値となった。今後も同程度の比率が続くと予測している。

c 管理経費は、予算比3600万円減となった。

①教育活動収入計1億62億1300万円(予算比1億800万円増 前年度比2億700万円増)

②教育活動支出計1億55億1100万円(予算比1億6500万円増 前年度比1億9000万円減)

③機器備品監査の実施
- ④その他

①通常監査、特別監査の実施
- ②不正防止計画履行状況調査

③機器備品監査の実施
- ④その他

(8) 自己管理型点検評価チェックシステムの実施

(9) 公益通報制度の充実

引続き良好な水準となった。

特別支出計は、資産処分差額や過年度修正支出などで1500万円となった。

(4) 事業活動収入計1億67億1100万円(予算比1億1500万円増 前年度比1億6100万円増)

事業活動収入計は、前年度比で1億6100万円の増加となった。

①学生生徒等納付金の受取利息・配当金(8600万円増)が増加したことによる。

②外部資金の獲得強化

③より効果的な資産運用とリスク管理の徹底

④その他の収入源確保

策の検討

(支出面)

①管理経費の効率化

②教育研究経費の見直し

学生共済会 予算、決算を承認

予算

令和元年度学生共済会予算案は、理事会で協議した結果、異議なく承認された。予算の概要は次のとおり。

△収入の部▽

- 受取利息
- 金利低迷の中、余裕資金の運用継続により投資有価証券から発生する利息として、340万円を計上した。
- 前年度繰越金
- 1025万7953円

△支出の部▽

- 給付金
- 給付金支出金額は、昨年同様300万円を計上した。
- 学費貸与金
- 学費貸与金支出額は、昨年度151万円程度であったが、各種奨学金の申請状況を考慮し、200万円を計上した。
- 委託費
- 昨年同様、このところの元氣サポート、暮らしの身近な法律相談の継続に係る費用として、710万円を計上した。
- 消耗品費
- 災害時の非常用保存食

決算

平成30年度の学生共済会決算も同理事会で異議なく承認された。決算の概要は次のとおり。

収入の部では、貸付金回収の2050万円や受取利息等を併合せ計約8008万円となった。

今年度も返済方法や督促方法を再度見直し、回収率アップに一層力を入れて取り組むたい。

支出の部では、昨年開始したインフルエンザ予防接種の購入費として、300万円を計上した。

令和元年度学生共済会も31年目を迎え、会員の学生生活が豊かなものとなるよう、制度の充実を図りつつ、平成30年度も順調に運営されました。このことを報告致します。

平成30年度決算報告書

貸借対照表 平成31年3月31日 千葉工業大学学生共済会

資産の部		正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
普通預金	40,257,953	共済基金	205,000,000
定期預金	235,000,000	積立金	195,000,000
貸付金	104,429,012	貸付充当金	104,429,012
投資有価証券	300,000,000	学費貸与準備金	165,000,000
		次年度繰越金	10,257,953
合計	679,686,965	合計	679,686,965

平成30年度収支決算書

自 平成30年4月1日 : 至 平成31年3月31日

I 収入の部		II 支出の部	
科目	予算額(①)	決算額(②)	対予算差額(②-①)
1.会費収入	24,000,000	24,743,750	743,750
2.入会金収入	4,500,000	4,886,000	386,000
3.受取利息	3,000,000	3,447,443	447,443
4.貸付金回収収入	21,000,000	20,546,479	-453,521
5.手数料収入	1,600,000	1,385,290	-214,710
6.学費貸与準備金取崩収入	0	0	0
7.積立金取崩収入	0	0	0
8.当期小計	54,100,000	55,008,962	908,962
9.前年度繰越金	25,072,284	25,072,284	0
10.当期収入総計(A)	79,172,284	80,081,246	908,962
1.支払保険料	17,500,000	25,725,119	8,225,119
2.給付金	3,000,000	2,137,000	-863,000
3.貸与金	20,000,000	1,511,250	-18,488,750
4.委託費	7,100,000	7,048,080	-51,920
5.消耗品費	3,000,000	2,722,500	-277,500
6.通信費	300,000	15,308	-284,692
7.印刷費	400,000	201,960	-198,040
8.会議費	250,000	80,753	-169,247
9.支払手数料	400,000	329,643	-70,357
10.事務費	200,000	51,680	-148,320
11.学費貸与準備金組入支出	0	0	0
12.共済基金組入支出	0	0	0
13.積立金組入支出	0	30,000,000	30,000,000
14.当期小計(B)	52,150,000	69,823,293	17,673,293
15.次年度繰越金(A)-(B)	27,022,284	10,257,953	-16,764,331

注)共済会の会計では、継続的に資金の収支を確認するため、金額がゼロの科目について省略することなく記載している。

令和元年度 PPA地区懇談会会場

千葉工大の隆盛に誇り

開催時刻：13時(本学は12時30分予定)

Table with 4 columns: 地区, 開催日, 会場名, 電話. Lists various regional venues for the PPA 70th anniversary event.



PPA 70周年 新会長に小澤氏

令和に入って初めての PPA 総会が6月29日、習志野文化ホールで開催され、保護者と教職員合わせて約700人(ほかに委任状3795人)が出席した。写真。

PPAは昭和24年11月26日に発足し、昭和の40年、平成の30年を経て、今年70周年の節目の年。会場は、この春の入学式で志願者総数が初めて9万人を突破するなど、「千葉工大」ブランドの全国的な飛躍ぶりを直に感じたという学生の父母たちの静かな熱気に包まれていた。

深水進会長はあいさつで「昭和53年に入学した私に続いて、娘が平成28年に入学したことで、千葉工大との縁がますます深いものになった。また、地区懇談会では保護者と教職員、同窓生の皆さんが一緒に千葉工大への誇りと熱い思いを抱いていることを感じた。そうした思いの上に今の千葉工大の隆盛があるのだと思う」と語った。

小宮一仁学長は、就任以来の教学改革が着実に成果を挙げていることを報告。工学系の専門分野を学ぶ学生にとってグローバル化社会は活躍の場が広がる有利な社会であるとした上で、「皆さんのご子息・ご息女には新時代のグローバルリーダーとして活躍するため、学部卒業後はぜひ、大学院修士課程に進学するよう勧めたい」と呼びかけた。

「大学にとって学修施設の充実も大変に重要な課題である」とし、西浜運動施設内に来年の完成を目指して、多目的ホールをこの8月に着工することを明らかにした。また、学生の健康維持のために、学生食堂で提供する食事にも栄養バランスと味の両面から気を配っているとし、「安くおいしいと学生諸君から評判の学食を、保護者の皆さんもぜひ一度、ご賞味いただきたい」と語りかけた。

議事は、平成30年度の事業・決算・監査報告と、令和元年度の事業計画・予算案をいずれも全会一致で承認。事業計画では、PPA設立70周年記念事業として①同じく70周年を迎える津田沼祭で、学生たちが企画する記念イベントへの援助を決定。②新習志野キャンパス内の2カ所に屋外用ポール時計を寄贈③全学生・教職員に記念品(パーカー・ボールペン)の配布。また、PPA地区懇談会を別表の日程で開くことが決まった。

さらに会長以下の新役員と評議員を選任した。新役員は次のとおり(敬称略)。

- ▽会長 小澤俊之(情報通信システム工学科3年の保護者)
▽副会長 詫間賢司(金融・経営リスク科学科2年の保護者)
▽副会長 橋本和明(理事・評議員、応用化学科教授)
▽監事 田部井洋子(電気電子工学科3年の保護者)
▽監事 村上利幸(経営情報科学科准教授)

「5日以上」 本格27社がアピール 初のインターンシップ説明会

理系学生を対象にした企業とのインターンシップ(就業体験)が最盛期を迎える夏休みを前に、就職・進路支援部は7月4日、学部3年生と修士1年生を対象に本学では初めての「インターンシップ説明会」を開いた。例年、5日間以上のインターンシップを実施する企業は数百社とみられる。社会全般を見渡せば、1日だけの「1dayインターンシップ」でお茶を濁している企業も少なくない。

そこで、来年春から本格的な就職活動に入る学生諸君に、本物のインターンシップを実施している企業との「出会いの場」を設け、企業の考え



「千葉工大生」に熱い視線を送っている27社が参加。会場の2号館3階大教室には学部3年生約350人が訪れた。写真。

「本学に求人票を寄せる企業は1万5000社に上るが、そのうち「本物の就業体験」といえる5日間以上のインターンシップを実施する企業は数百社とみられる。社会全般を見渡せば、1日だけの「1dayインターンシップ」でお茶を濁している企業も少なくない。

「本学に求人票を寄せる企業は1万5000社に上るが、そのうち「本物の就業体験」といえる5日間以上のインターンシップを実施する企業は数百社とみられる。社会全般を見渡せば、1日だけの「1dayインターンシップ」でお茶を濁している企業も少なくない。

「本学に求人票を寄せる企業は1万5000社に上るが、そのうち「本物の就業体験」といえる5日間以上のインターンシップを実施する企業は数百社とみられる。社会全般を見渡せば、1日だけの「1dayインターンシップ」でお茶を濁している企業も少なくない。

2020年度 千葉工業大学入学試験日程

Table with 4 columns: 試験種別, 願書受付期間, 試験日, 合格発表日. Lists exam dates and application periods for 2020.

大学入試センター利用入学試験・一般入学試験

Table with 4 columns: 試験種別, 願書受付期間, 試験日, 合格発表日. Lists exam dates and application periods for university entrance exams.

- 参加企業 旭建設、ナリコー、ティーエス、京成建設、新日本建設、東電、橋梁コンサル、東急、ミュニティ、JFE、チール、大森、クロム工業、パース、牧野、アイスクリーム、オイスカ、KOA、ミヤコ、シマムラ、ニチロ、物流、福井電機、NS、コンピ、ユーティリティ、日立、イテック、リコー、システム、空間情報サービス、スクウェア、ファンテック、NTT、東日本、ネクストページ、新日本、破壊検査、のほら、レスサービス、ビッグデータ設計

# 五輪 パラ競技へ理解を

## ブラインドサッカー 体験会

「音」と「声」のコミニケーションで繰り広げられる「ブラインドサッカー」の体験会が6月30日、新習志野キャンパス体育館アリーナで開かれた。来年の東京五輪・パラリンピック(東京2020)に向かって学内で「ピック調整課の「千葉工大でもぜひ体験会を」という呼びかけに、先進工学部教育センターの金田晃一准教授が応えた。



アイマスクを着けて実戦



体験会の講師と参加者たち

これに「競技観戦以外にも東京2020への参加方法はたくさんある。それを学生の若い力で企画・提案しよう」と、関東地区の大学生を主体に設立された「学生団体おりがみ」の千葉工大支部が賛同。メンバー8人が運営協力するともに、実際に練習や競技を体験した。

ブラインドサッカーはフットサル(5人制サッカー)を基にルールが考案された。フィールドプレイヤーはアイマスクを着け、転がる音の出るボールを追ってプレーする。国際視覚障がい者スポーツ協会(IBSA)の佐々木康裕さん(全盲)と、瀧澤大作さん(弱視/同)、北郷宗志さん(晴眼者/乃木坂ナイツ所属)が講師となり、参加者はアイマスクを着けての歩行練習から実際の競技まで2時間、ブラインドサッカー体験に汗を流していた。

# 環境保全へ、パネル出展

## 谷津干潟フェスタに村上研や小浦研

「谷津干潟の日フェスタ」を支援する谷津干潟ユースとして本学文化会が環境科学研究会(顧問:村上教授)と生物部(顧問:橋本香保子准教授)が加わった。フェスタは、シギ・チドリ類などの渡り鳥の飛来地でもある谷津干潟がラムサール条約に登録された。6月8日、新習志野市環境審議会委員として、生命科学科の五明美智男教授と村上和仁教授が出展した。

「第22回ふなばし環境フェア」は、行政、NPO、大学関係など48団体が参加して開かれ、約2400人が集まった。本学からは文化会・環境科学研究会と生命科学科・村上和仁研究室(写真)が参加して開かれ、約2400人が集まった。



「第22回ふなばし環境フェア」は、行政、NPO、大学関係など48団体が参加して開かれ、約2400人が集まった。本学からは文化会・環境科学研究会と生命科学科・村上和仁研究室(写真)が参加して開かれ、約2400人が集まった。

「第22回ふなばし環境フェア」は、行政、NPO、大学関係など48団体が参加して開かれ、約2400人が集まった。本学からは文化会・環境科学研究会と生命科学科・村上和仁研究室(写真)が参加して開かれ、約2400人が集まった。

# 水耕ソーラー栽培へ定植実験

## 久保研が南房総市で

南房総市で産学協働地創生事業を進めるプロジェクトマネジメント(PM)学科・久保裕史教授の研究室は5月22日、同市和田町の県立安房拓心高校で、農業の最新技術を試すため薬物野菜の定植を行った。写真。南房総市では農業の収益が低いことから離農や耕作地の放棄が増えている。久保研では反当り収

益を増やそうと、耕地を調整池化して水耕パネルを浮かべたり、水耕棚を作り、ソーラーパネルを活用してLED照明などで光量や温度を管理する「水耕ソーラーシェアリング」技術を研究。農業を担う次世代の育成にも取り組んでいる。

今回は作物への肥料量を調べるのが主目的。久保研の三枝侑揮さん(4年)ら学生5人が参加しサニールタス、グリーンレタス、サンチュの3種類の苗を用意した。初めに安房拓心高園芸部の生徒たちに環境測定に使う機器を説明し肥料の投入量を検討した。そして生徒たちとともに3種類の苗の定植に取り掛かった。

「日ごろの運動不足はもちろん、異なる学年の連携する姿が印象的でした。真剣に勝負している姿に、つい熱中してしまっただけです。」



今回は作物への肥料量を調べるのが主目的。久保研の三枝侑揮さん(4年)ら学生5人が参加しサニールタス、グリーンレタス、サンチュの3種類の苗を用意した。初めに安房拓心高園芸部の生徒たちに環境測定に使う機器を説明し肥料の投入量を検討した。そして生徒たちとともに3種類の苗の定植に取り掛かった。

# 笑いと本気が激突

## 寮生487人 運動会



夏恒例の学生寮(桑蓬寮・椿寮・小林翔・学生寮寮長)都市環境工学科4年の運動会

が、6月22日(土)、新習志野キャンパスの寮わきに広がる野球場グラウンドで開催された。雲行きが危うかったが、執行役員たちの臨機応変な対応で、一部競技を取り止めた以外、無事に行うことができた。女子寮の増設で今年は参加487人と最多となった。



「日ごろの運動不足はもちろん、異なる学年の連携する姿が印象的でした。真剣に勝負している姿に、つい熱中してしまっただけです。」



「日ごろの運動不足はもちろん、異なる学年の連携する姿が印象的でした。真剣に勝負している姿に、つい熱中してしまっただけです。」

「日ごろの運動不足はもちろん、異なる学年の連携する姿が印象的でした。真剣に勝負している姿に、つい熱中してしまっただけです。」



「日ごろの運動不足はもちろん、異なる学年の連携する姿が印象的でした。真剣に勝負している姿に、つい熱中してしまっただけです。」

# 来場者増、講演も満席

## 6月オープンキャンパス

今年度初のオープンキャンパスが6月23日、津田沼キャンパスで開かれた。関東圏外からも高校生や父母たちが訪れ、来場者は昨年同期の3200人を5000人上回り、3715人。2年連続で500人以上の増加となり、本学への関心の高さがうかがえた。

ラムや配布資料を受けとると、「全部見せます、千葉工大！」「学部学科説明会」「入試ガイド」(AO・推薦)(センター・一般)などの会場へ次々に足を運び、開始30分前にはすでに満席となる講演もあった。

1階フロアには、入試広報課学生スタッフによる企画「もっと見せまわす、千葉工大！」を展開。学生たちがキャンパスの日々や学食風景を撮った写真、各サークルの活動や工大生の日々をまとめた展示を行い、来場者たちは足を止めてギャラリーを楽しんだ。他にも、当日の様子をSNSで発信するなど、新しい試みに挑戦した。

情報学部以外の学部が勢ぞろいした6号館では、各学部の説明会や学び体験コーナーが用意され、学科の特徴を見たり体験したりし、高校生や父母が積極的に教員や学生らに話しかける姿が多く見られた。

特別企画の「はやぶさ2トークライブ」では、惑星探査研究センターの和田浩二主席研究員が、2回目の着地(タッチダウン)7月11日)を控え「はやぶさ2」の最新情報を紹介し、2回の講演とも満席となった。

4号館懇談フロアでは自治会学生たちが中心となって「在學生に聞いてみよう」「キャンパスツアー」を展開。丁寧な対応で、保護者たちに好評だった。



在學生も受験生を歓迎



工作センターで



学食でランチを試す



音環境実験スタジオで



保護者向け説明会



「はやぶさ2」の最新情報を紹介



レスキュー・ロボのデモンストレーション

**編集だより**  
毎年の恒例行事であるオープンキャンパスが先日無事終了した。昨年度、一昨年度と、連続で5000人増。6月のオープンキャンパス来場者数はこれまでの記録を更新し、3700人を超えた。この驚異的な数字に本来は手放して喜ぶ

### 四季雑感



来年の今頃は東京オリンピックですね。多くの人が日本を訪れるため、涼しい夏を願っています。ですが、願いは届くでしょうか。少しでも気持ち良くオリンピックを楽しんでもらいたいです。

先日、私も東京オリンピック観戦チケットの抽選に申し込んでみました。結果は思うようには行きませんが、多くの人が見られるように購入方法も考慮されているので、まだまだ諦めず観戦チケットを手に入れたいと思っています。

### 同窓会



今年の夏の気温の予想は平年並みかどうかが、平年って何でしょう？ というところで調べてみると、今年の場合は1981年から2010年までの30年間の平均値がベースで、西暦の末尾が1となる年にその直前の30年間の値の平均値が使われるので、平年並みとは30

年間の観測値を比べ、値が小さい方から10番目までが平年より低い、11番目から20番目が平年並みとなる。そのデータ間の値なら平年並みということだそう。

平年並みとは言っているが、最近の気温はいつも7月より涼しい気がする。これはエルニーニョ現象の影響だろうか。今年にはエルニーニョ現象が発生している。エルニーニョ現象とは南米ペルー沖の海面温度が平年より高くなる現象で、その影響で太平洋高気圧の日本付近への張り出しが弱くなり冷夏になることも多い。

今年は張り出しが弱いので、梅雨前線もなかなか北に押し上げられない。そのせいで今年は梅雨明けが遅くなりそう。それでも平年並み程度では、その後は暑くなるのだろうか。平年並みでよいのだが……。

ところが、人数が増えるたびに、来場者一人ひとりの皆さんから不満の声があがらないか、実は不安になったりもする。オープンキャンパスを開催するにあたり、毎回、毎年感じること、このイベントに対する教職員の方々の惜しみない協力と、在学生諸君の愛のある丁寧な対応だ。入念な打ち合わせ、当日までの準備期間には各学科の魅力存分に発揮す

また家族とオリンピックの話をする機会も増えていきます。後期高齢者になる親も、お気に入りの競技の観戦を目標に健康に注意し楽しみにしています。チャンスを逃さず、ぜひ一緒にオリンピック

「オープンキャンパス楽しかったです」「学生の皆さんが親切」当日のアンケートを見て、教職員、学生ら全員で成功に導いた結果にホッとします。さて、次回は8月、6000人？(願望)皆様、どうぞ、よろしくお願ひします！

大学の雰囲気や試合の高揚感を味わいたいと思います。

大学ではオリンピック期間、授業はありません。ボランティアでオリンピックに参加する人もいます。

産官学融合課 藤平 浩子

情報工学科 佐藤 愛美

大橋 慶子